

第88期

中間報告書

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで

- P1 株主のみなさまへ
- P2 営業の概況
- P3 成長戦略
- P4 完成・受注工事のご紹介
- P5 上半期トピックス
- P7 技術のご紹介
- P9 財務情報

トップメッセージ

株主のみなさまへ



TODA Brand Message

人がつくる。人でつくる。

ここで過ごす人々の姿を、
ここからはじまるしあわせをイメージしながら。

アイデアでつくろう。情熱でつくろう。
さまざまな人の想いをつないでつくろう。

アタマとココロを使って
人間にしかできないものづくりを目指して。

人がつくる。人でつくる。
それが戸田建設のやりかたです。

ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期（平成22年4月1日～平成22年9月30日）の我が国経済は、個人消費の持ち直しや企業収益の改善など景気回復の動きが見られたものの、期後半になると、欧米経済における回復ペースの減速や円高、デフレ等の影響から景気は足踏みし、先行きに対する不透明感が増してきました。建設業界におきましては、設備投資の過剰感が依然残るとともに、公共投資が減少するなど、極めて厳しい状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社におきましては、中期経営計画に基づき、ストック社会を見据えた建設ライフサイクルへの取り組み、重点分野の深耕、海外事業の強化等の施策を積極的に展開してまいりました。この結果、当上半期における当社グループの業績は、売上高1,899億円、営業利益16億円、経常利益22億円、純利益11億円と、いずれも前年同期を上回ることとなりました。

さて、近年は地球環境問題の深刻化により、持続可能な社会の構築が全世界共通の課題となっております。こうした認識のもと、当社では「2020年にCO₂排出量40%削減（1990年比）」という数値目標を掲げ、現在、環境アクションプランを推進しております。今後も厳しい経営環境が続くものと予想されますが、環境への取り組みをはじめ、CSR（企業の社会的責任）の観点からもバランスがとれた経営を実践していくことで、当社ならではの価値のご提供と、更なる成長を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

代表取締役社長

井上 昇三

▶ 営業の概況

当上半期（平成22年4月1日～平成22年9月30日）における当社グループの売上高は1,899億円と、前年同期比38.3%増となりました。利益面につきましては、完成工事総利益率が6.5%と、0.6ポイント改善するとともに、完成工事高も増加したため、営業利益は43億円増加の16億円となりました。また、経常利益は22億円、四半期純利益は11億円となりました。当上半期におきましては、工事進行基準適用工事の完成工事高全体に占める割合が前年同期に比べ大きく増加したため、大幅な増収となりました。

なお、事業の種類別セグメントにおける業績は、以下のとおりとなっております。

■ 建築事業

売上高は1,567億円となり、セグメント利益は55億円となりました。

なお、建築事業および土木事業におきましては、契約により、工事の完成引渡しが多半期に集中していることに伴う季節的変動があり、上半期における完成工事高に比べ、下半期における完成工事高が多くなるという傾向

があります。

また、当社個別の受注高につきましては、建設投資全体の減少から、民間工事（国内）、官公庁工事（国内）ともに減少し、全体（海外含む）では1,393億円と、前年同期比1.8%減となりました。

■ 土木事業

売上高は296億円となり、セグメント損失は12億円となりました。

当社個別の受注高につきましては、大型工事を受注したことにより、官公庁工事（国内）が前年同期比95.7%増となり、全体（海外含む）で410億円と、同57.6%増となりました。

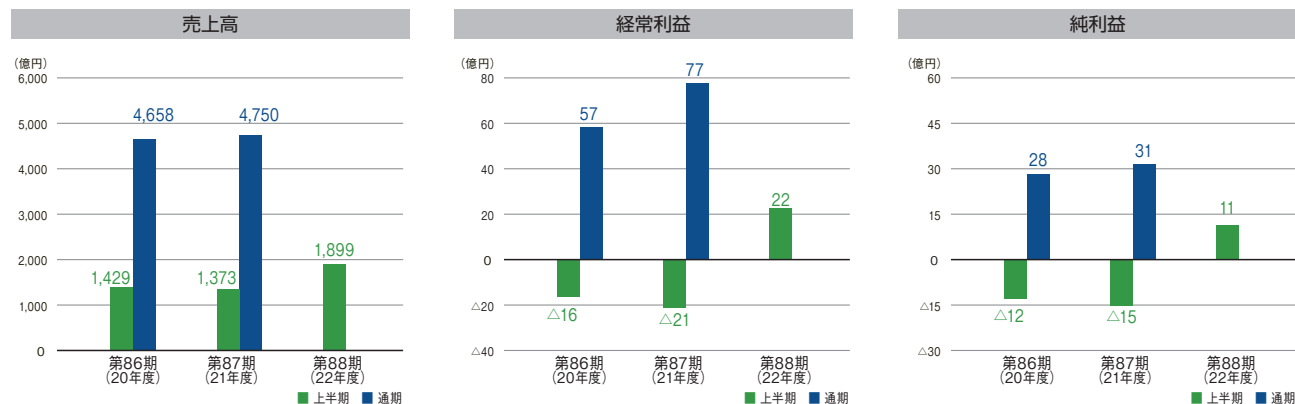
■ 不動産事業

賃貸および建設事業に付帯する販売を中心に事業を展開し、売上高は57億円、セグメント利益は9億円となりました。

■ その他の事業

子会社におけるホテル事業を中心に、売上高は6億円、セグメント利益は49百万円となりました。

財務ハイライト（連結）



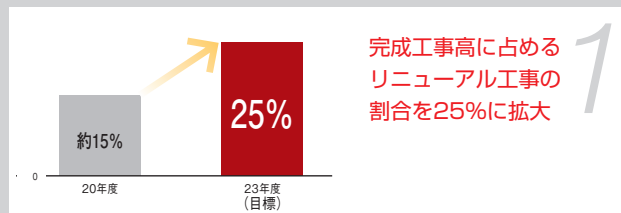
成長戦略

収益体制の再構築へ向けて

利益の回復、今後の更なる成長を確かなものとするべく以下のような施策を展開してまいります。

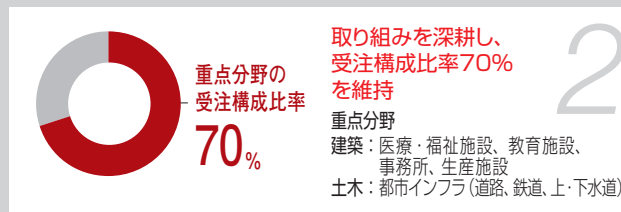
1. 建設ライフサイクルへの取り組みを推進
2. 重点分野の深耕
3. 海外事業の強化
4. 不動産投資の強化
5. 地域戦略

施策の概要と当上半期の進捗状況をご報告いたします。



建設ライフサイクルへの取り組みを推進

耐震改修、設備更新（省エネ、環境）といった分野に関する技術提案力を強化し、当上半期におけるリニューアル工事高は183億円と、前年同期より44.1%増加となっております。



重点分野の深耕

当上半期の建設受注高において、建築では医療・福祉施設の占める割合が34.5%となり、土木では道路工事が52.6%となっております。結果、重点分野が受注全体の79.9%を占めております。



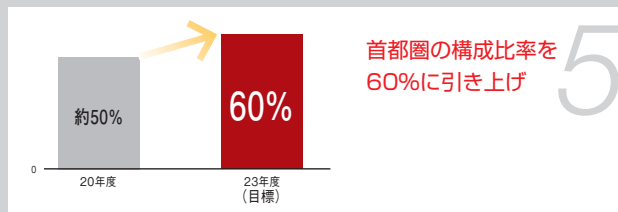
海外事業の強化

新興国を中心とした海外需要を積極的に取り込み、当上半期の海外受注高は79億円となっております。なお、ブラジル36億円、中国31億円と、いずれも前年同期を大きく上回っております。



不動産投資の強化

現在の不動産市況を勘案し、時期や規模など、リスクを正確に見極めながら、着実に投資を進めております。安定収益基盤の確保に向けて、体制を整備してまいります。



地域戦略

当上半期の売上高の60%以上を首都圏にて計上しております。今後とも、人員をフレキシブルに投入し、建設投資規模や仕事量に応じた配置を実施してまいります。

完成・受注工事のご紹介

当社では、機能性や品質に優れ、安心・安全で、環境に配慮した建設物を実現することで、建設業としての企業の社会的責任を果たしています。当上半期における主な完成・受注工事をご紹介します。

沖縄県支部関連施設合同新築移転工事



工事名称 沖縄県支部関連施設合同新築移転工事
工事場所 沖縄県那覇市
発注者 日本赤十字社
竣工月 平成22年5月
工事概要 PC造 地上7階
床面積26,552㎡
用途 病院

尾道・松江自動車道上本谷外トンネル工事



工事名称 尾道・松江自動車道上本谷外トンネル工事
工事場所 広島県庄原市
発注者 中国地方整備局
竣工月 平成22年6月
工事概要 工事延長L=1,000m、トンネル工L=846m
坑門工4基、深礎杭3本、抱き擁壁2基、重力式擁壁他
用途 道路

■ 当上半期における主な完成工事

- ・ 蕨駅西口地区7番街区市街地再開発組合
蕨駅西口地区7番街区第一種市街地再開発事業 施設建築物新築工事 他
- ・ (株) 日本製鋼所 室蘭製作所統合新工場建設
- ・ 東京都品川区 (仮称) 荏原西地区小中一貫校新築工事
- ・ 東京国際空港ターミナル(株)
東京国際空港国際線地区旅客ターミナル等新築工事(C工区)
- ・ 近畿地方整備局 庭窪取水施設改築工事

■ 当上半期における主な受注工事

- ・ (医) 雪の聖母会 聖マリア病院
聖マリア病院再開発計画 第Ⅱ期工事・国際医療センター新築工事
- ・ 東日本旅客鉄道(株) 神田万世橋ビル(仮称) 新築
- ・ 日本赤十字社 近畿ブロック血液センター〔仮称〕建設工事
- ・ 茨城県つくば市 22国債(仮) 春日小学校・中学校建設工事
- ・ よつ葉乳業(株)
十勝主管工場 乳製品工場バター・液状生産施設他建設
- ・ 東日本高速道路(株) 東京外環自動車道田尻工事(JM)
- ・ 西日本高速道路(株) 西名阪自動車道 郡山北工事

戸田カーボンニュートラルスキーム開始



工事現場より発生する建築廃材を利用して発電した電力を、当社の工事現場や事業所で使用する電力として還元する戸田カーボンニュートラルスキームを5月より開始しました。

初適用となった熊本駅前東A地区再開発作業所（熊本県熊本市）では、排出した建築廃材（木質チップ）相当分のグリーン電力環境クレジット（グリーン電力

証書）を作業所に還元し、タワークレーンや仮設昇降機の電力のCO₂排出量のオフセットとして利用しています。

※カーボンニュートラルとは、植物が光合成により成長する過程で空気中のCO₂を吸収することから、成長した植物を燃焼させても、空气中に排出されるCO₂は、もともと空气中に存在したCO₂を植物が取り込んだものであるため、大気中のCO₂総量の増減には影響を与えないとする考え方です。



近隣配慮型騒音低減技術を実用化

戸田式アクティブ騒音制御システム「TANC（タンク）」

建設現場で発生する騒音を低減し近隣の方々に配慮することを目的として、建設機械のエンジンから発生する低音域の騒音を低減する装置を実用化しました。

BDF（バイオディーゼル燃料）の製造と活用

当社の松戸工作所内にBDF製造装置を設置し、廃食用油から製造したBDFを当社の建設工事用の機械に使用することで、CO₂排出量を削減しています。

▶▶ 詳しくはP.7（技術のご紹介）をご覧ください。

上半期トピックス

4月

5月

6月

廃校小学校の再生

東京都中野区「仲町小学校跡施設」

平成20年3月に廃校となった東京都中野区立仲町小学校の「地域密着型複合施設へのコンバージョン（用途変更）」を設計・施工で平成22年6月に竣工させました。



築35年以上経つRC造・一部S造、3階建の校舎を「中部すこやか福祉センター」・「地域スポーツクラブ」・「仲町就労支援事業所」の3つの機能を担う新しい時代にふさわしい地域密着型の複合施設として再生させました。同時に、耐震補強工事も行い、災害時には避難所としての拠点機能を持つ施設となりました。

当社は、サステナブル社会を構築するという社会的動向の中で、今回のような都市部に増えている廃校のコンバージョンによる地域再生事業を含め、リニューアル工事の受注拡大に今後も注力していきます。



仮囲いで「暑熱環境の緩和」・「熱中症対策」

壁面緑化・ミスト噴霧の仮囲いを活用した野菜づくり

東京農業大学新講義棟建設工事作業所で、ミスト噴霧を備えた壁面緑化の仮囲いを設置し、暑熱環境の緩和とミスト噴霧を利用した野菜づくりを行いました。ヘデラ類など4種類の植物をバランス良く配置し壁面緑化を行うとともに、この仮囲いのミスト噴霧を活用し野菜を栽培しました。収穫した野菜は昼食や休憩時間などに摂取するなど熱中症対策として活用しました。



7月

8月

「戸田建設 CSRレポート2010」を発行

2009年度のCSR（企業の社会的責任）に関する活動実績等を取りまとめた「戸田建設 CSRレポート2010」を発行しました。本年のレポートでは、現在推進中の「環境アクションプラン」を特集としてとりあげ、当社が掲げる「2020年にCO₂排出量40%削減（1990年比）へ向けた具体的な取り組みを紹介しています。またその他、「職長会を通じた相互理解の促進」・「千葉県松戸市で展開する地域社会との共生」についても特集としてとりあげています。



詳しい情報は下記アドレスにてご覧ください

<http://www.toda.co.jp/csr/report>

在来工法天井の脱落防止対策用「耐震クリップ工法」の開発

当社は、西松建設（株）および八潮建材工業（株）と共同で、在来工法天井の脱落防止対策として、野縁と野縁受けを繋ぐ接合部を補強する「耐震クリップ工法」を共同開発しました。振動台による実験では、近年地震被害が報告されている大規模な空間の天井も想定して検証を行い、従来の在来工法天井に比べて約2倍の揺れに対しても持ちこたえ、より優れた耐震性能を有していることを確認しました。今回開発した「耐震クリップ工法」を今後、大規模な天井を有する体育館、集会場のような建築物における天井脱落防止対策として積極的に提案していく予定です。



耐震クリップ
(ダブルクリップ)



①耐震クリップを斜めにして野縁の間に挿入



②クリップに被せるように上からはめ込む



③補強完了

9月

環境展示コーナーを開設

当社はこのたび、「環境展示コーナー」を本社ビル（TODA BUILDING）内に開設しました。当社の環境技術や環境に対する取り組みを紹介しています。見学をご希望の方は、下記問い合わせ先までご連絡をお願いします。

戸田建設（株） 環境戦略委員会 事務局 田中 TEL 03-3535-1376



地球の明日を考える戸田建設の技術

当社は地球の明日を考え、環境を護り、皆様の生活を守るための技術開発を行っています。
当社が提供する環境関連技術の一部をご紹介します。



BDF(バイオディーゼル燃料)の製造と活用

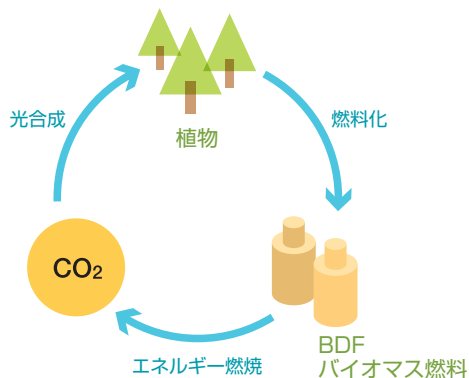
建設機械のCO₂発生量を削減

事業所や家庭で不要になった食用油から作る軽油代替燃料をBDFと呼びます。BDFを燃焼して排出されるCO₂は、その植物が成長過程で光合成により吸収したものであるため、大気中のCO₂を増加させない(この考え方をカーボンニュートラルと呼びます)、地球に優しい、再生可能エネルギーです。

廃食用油は松戸市様、松戸テクノプラザ様をはじめ多種の事業種様、町会様、NPOの皆様からご提供いただいているだけでなく、当社社員の家庭から

も集めています。

当社の松戸工作所内にBDF製造装置を設置して、この廃食用油とメタノール等の薬品を混合、加熱・攪拌してBDFを製造し、当社の建設工事で使用する機械にこのBDFを使用することで、CO₂排出量を削減しています。



カーボンニュートラル概念図



◀ BDF製造装置

BDF活用事例



発電機に使用



バックホウに使用



戸田式アクティブ騒音制御システム(TANC*)

建設機械騒音の低減

近年、建設工事騒音に関する苦情件数は増加傾向にあり、騒音対策はこれまで以上に重要な課題となっています。

従来の騒音対策として、遮音壁や防音シートの設置が挙げられますが、周波数の高い音には大きな効果が得られるものの、周波数の低い音には効果が小さいという問題がありました。

低周波数の音を低減する手法として、アクティブ騒音制御技術（ANC）が知られています。この技

術はマイクやスピーカ等の電気音響機器を利用し、対象とする騒音と逆位相の音を重ね合わせることで騒音を低減するというものです。

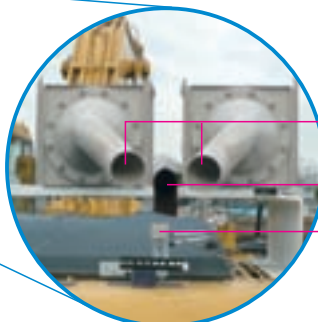
当社は、低周波数に有効なANCの原理を独自の方法で実用化し、従来の騒音対策と組み合わせることで幅広い周波数の騒音対策を可能としました。

この戸田式アクティブ騒音制御システム（TANC）は建設工事騒音の中でも、特に低周波数の音の大きい掘削機のエンジンマフラー騒音の低減に有効で、既に数多くの工事現場に適用しています。



全景

*TANCとはToda式Active Noise Controlの頭文字を略したものです。



スピーカ

マフラー排気口(騒音源)

マイク

連結損益計算書のポイント

(単位：億円)

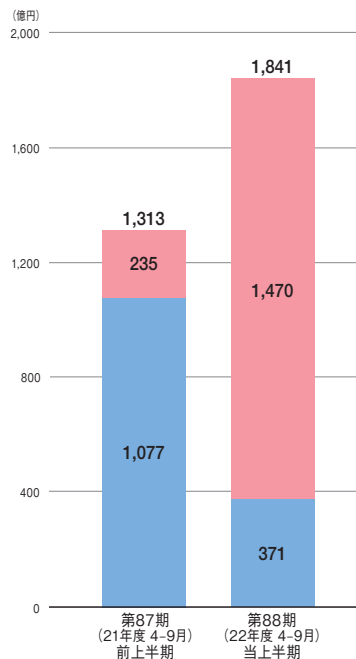
	前上半期	当上半期
売上高	1,373	1,899
建設	1,313	1,841
不動産	59	57
売上利益	96	135
(利益率)	(7.0%)	(7.1%)
建設	77	119
(利益率)	(5.9%)	(6.5%)
不動産	18	16
(利益率)	(31.8%)	(28.1%)
販売費及び一般管理費	123	119
営業利益 (△損失)	△ 26	16

Point 1

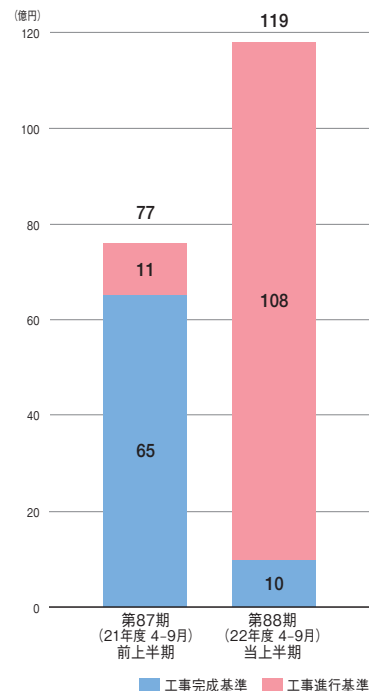
営業利益の増加

当上半期の営業利益は、前上半期より43億円増加して16億円となりました。これは、完成工事総利益率が6.5%と、前上半期よりも0.6%改善したためです。また、工事進行基準適用工事の完成工事全体に占める割合も8割程度に達し、その結果、大幅な増収となったことも営業利益が改善した大きな要因です。

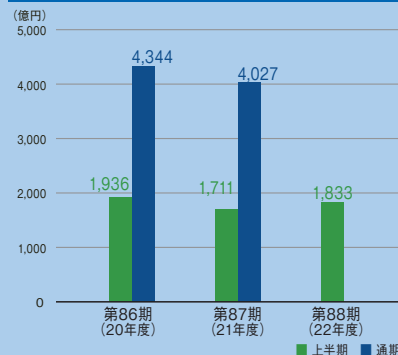
完成工事高



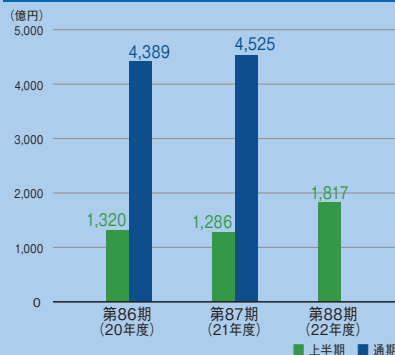
完成工事総利益



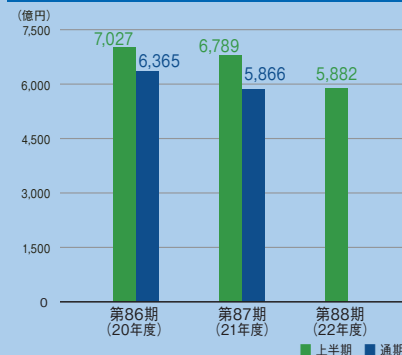
受注高 (個別)



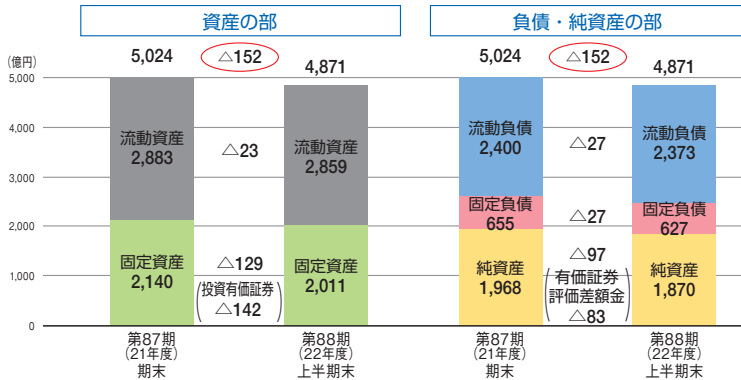
売上高 (個別)



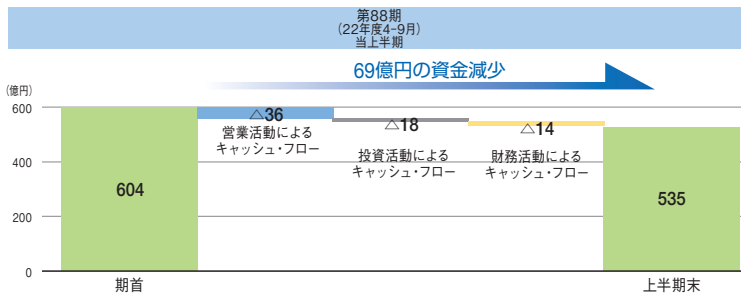
繰越高 (個別)



連結貸借対照表のポイント



連結キャッシュ・フローのポイント



Point 2

不動産投資の継続

都心3区(千代田、中央、港)を中心に不動産投資を強化しておりますが、当上半期は15億円投資しております。

Point 3

保有株式の時価下落

前期末に比して保有株式の時価が下落したことにより、固定資産に含まれる「投資有価証券」が前期末に比して142億円減少し、それに伴い、純資産に含まれる「有価証券評価差額金」も83億円減少しています。

【参考】日経平均株価：前期末 11,089円
当上半期末 9,369円

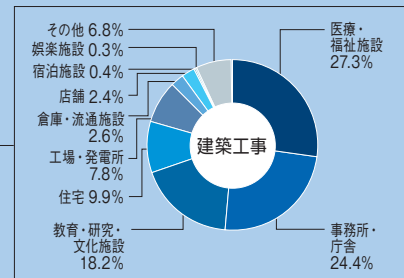
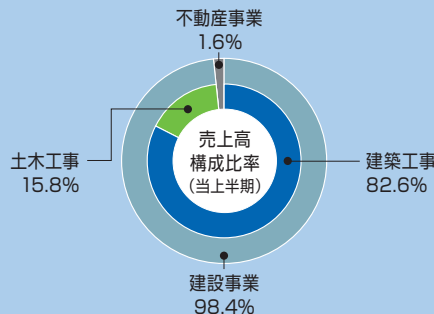
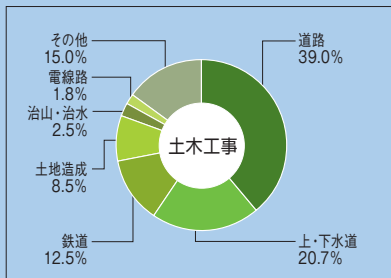
Point 4

キャッシュ・フローの状況

工事収支が79億円の支出超になったことにより、営業活動は36億円の資金減少となりました。また、投資活動は事業用資産の取得などにより18億円の資金減少、財務活動は配当金の支払い21億円などにより14億円の資金減少となりました。

その結果、当上半期末における現金及び現金同等物は前期末に比べて69億円減少し、535億円となりました。

事業種別 売上高構成比率(個別)



■ 会社概要

(平成22年9月30日現在)

● 主な事業所等

本店 (東京都中央区京橋一丁目7番1号)

支店

- ・ 東京支店 (東京都中央区) ・ 千葉支店 (千葉市) ・ 関東支店 (さいたま市)
- ・ 横浜支店 (横浜市) ・ 大阪支店 (大阪市) ・ 北陸支店 (金沢市)
- ・ 名古屋支店 (名古屋市) ・ 札幌支店 (札幌市) ・ 東北支店 (仙台市)
- ・ 広島支店 (広島市) ・ 四国支店 (高松市) ・ 九州支店 (福岡市)
- ・ 国際支店 (東京都中央区)

技術研究所 (つくば市)

子会社

- ・ 千代田土地建物株式会社 (東京)
- ・ 戸田道路株式会社 (東京)
- ・ ブラジル戸田建設株式会社 (ブラジル)
- ・ アメリカ戸田建設株式会社 (アメリカ)
- ・ 戸田建設工程 (上海) 有限公司 (中国)
- ・ タイ戸田建設株式会社 (タイ)
- ・ ベトナム戸田建設有限公司 (ベトナム)

● 従業員の状況

従業員数 5,142名 (連結) 4,224名 (個別)

● 取締役および監査役

取締役名誉会長	戸田 順之助	常勤監査役	戸田 守 道
取締役相談役	戸田 守 二	常勤監査役	内藤 博 之
代表取締役会長	加藤 久 郎	監査役	鍛冶 良 明
代表取締役社長	井上 舜 三	監査役	増田 健 一
代表取締役	白井 正 幸	監査役	鈴木 勝 利
代表取締役	岡 敏 朗		
代表取締役	野村 昇		
取締役	戸田 秀 茂		

(注)1: 監査役鍛冶良明氏、増田健一氏および鈴木勝利氏は、社外監査役であります。
2: 監査役鍛冶良明氏は東京証券取引所および大阪証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。

戸田建設株式会社

〒104-8388 東京都中央区京橋一丁目7番1号
TEL. (03) 3535-1357
http://www.toda.co.jp/

戸田建設

検索

■ 株式の状況

(平成22年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 759,000,000株
- 発行済株式の総数 322,656,796株
- 株主数 13,449名
- 大株主

株主名	持株数 (千株)
大一殖産株式会社	32,870
戸田順之助	31,022
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブ アカウト アメリカン クライアント	22,151
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	14,452
株式会社三菱東京UFJ銀行	11,885
戸田守二	11,354
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ユーエス タックス エグゼンブテド ペンション ファンス	8,553
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	7,134
株式会社みずほ銀行	7,107
三宅良彦	7,087

(注)1: 上記のほか当社所有の自己株式11,002千株があります。
2: 戸田守二氏の持株数は、戸田建設役員持株会における持分を含めた実質所有株式数を記載しております。

■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)
上場金融商品取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.toda.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。